

## アクセスマップ



- 会 場：**日本財団ビル 大会議室（東京都港区赤坂 1-2-2 / TEL：03-6229-5111）  
**■ 最寄駅：**地下鉄銀座線「虎ノ門駅」3番出口より徒歩5分  
                   ：地下鉄銀座線・南北線「溜池山王駅」9番出口より徒歩5分  
                   ：地下鉄丸ノ内線・千代田線「国会議事堂前駅」3番出口より徒歩6分

## お申込の手順

1. 参加ご希望の方は、下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、FAX または郵送にてお申し込みください。
2. 参加費を右記郵便口座にお振り込みください。
3. 参加費の振込を確認し次第、参加票をお送りいたします。セミナー当日は、参加票をご持参ください。

※入金後のキャンセルにつきましては参加費のご返金はできかねますので予めご了承ください。

■ お申し込み・お問い合わせ

全国コミュニティライフサポートセンター / 担当：田村

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町 16-30 シンエイ木町ビル1階 TEL: 022-727-8730

※FAX 番号のお間違えにご注意願います

**FAX 022-727-8737**

## 【参加申込書】

全国コミュニティライフサポートセンター 宛

## 第4回「廃校を地域支え合いの拠点に！全国サミット」

申込責任者		団体名			
所在地	〒	( 自宅・職場 )	TEL		
			FAX		
お名前		役職	お名前		役職
1			3		
2			4		

第4回  
廃校を地域支え合いの拠点に！  
全国サミット



**日時** 2013年11月4日(月・祝) 10:20～16:50

**会場** 日本財団ビル 大会議室 (東京都港区赤坂1-2-2)

**定員** 200人(先着順) **参加費** 3,500円

少子高齢化や市町村合併による学校の統廃合や閉校が進み、2011年には、1年で474校もの小・中・高校などが廃校となるなど、その数は急増しています。

閉校と同時に活気を失い、地域が寂れていく……そんな廃校を、地域の新たな資源として住民自らが運営し、人づくりや地域づくり、住民同士の支え合い活動の拠点とする取り組みが全国で始まっています。

もともと学校は、地域コミュニティの核として機能し、人の交流や地域活力の源となってきました。

東日本大震災では、多くの学校が避難所となるなど、災害時や防災の拠点としての役割も期待されています。

廃校を活用し、地域の支え合い活動を広げるために  
必要な視点と工夫、学校と地域との協働や連携の活動について考え合います。

■ 主催：第4回「廃校を地域支え合いの拠点に！全国サミット」 実行委員会  
全国コミュニティライフサポートセンター

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

# プログラム

10:00～10:20	受付
10:20～10:30	開会
10:30～11:30	基調講演
11:30～12:00	行政報告
12:00～13:00	昼食休憩
13:00～14:40	実践報告
14:40～15:00	休憩
15:00～16:40	ディスカッション
16:40～16:50	閉会

## 「 廃校を地域支え合いの拠点とする意義 」

北星学園大学社会福祉学部 教授 杉岡 直人

## 行政報告

## 「 廃校の活用状況 」

文部科学省 大臣官房文教施設企画部施設助成課 課長補佐 錦 泰司

## 「 廃校利用の実践に学ぶ 」

### パネラー

区民活動支援施設大森 こらぼ大森（東京都大田区／旧大森第六小学校）  
副施設長 さかい かずえ

農村交流施設「森の巣箱」（高知県津野町／旧床鍋小・中学校）  
施設長 大崎 登

吹上ワンダーマップ（鹿児島県日置市／旧吹上町野首小学校）  
吹上ワンダーマップ実行委員会 委員長・情熱家 博多 和宏

### コーディネーター

全国コミュニティライフサポートセンター 理事長 池田 昌弘

### パネラー

北海道医療新聞社 介護新聞編集部 主任 熊谷 知喜  
(調整中) (調整中)

熊本県健康福祉部 健康福祉政策課 地域福祉班長 廣石 典子

文部科学省 大臣官房文教施設企画部施設助成課 課長補佐 錦 泰司

厚生労働省 社会・援護局総務課 課長補佐 荒川 英雄

### コーディネーター

北星学園大学社会福祉学部 教授 杉岡 直人

# 活動紹介

2002年3月31日に旧大森第二小学校と旧大森第六小学校が閉校となり、旧大森第二小学校の校舎を活用して、新たに大田区立開校小学校が開校した。このときに残った旧大森第六小学校の跡地をどのように活用するか？という大田区の呼びかけにより、地域住民が集まって施設活用協議会を発足。提案書の募集や、住民参加のワークショップなどの討議を経て、地域住民が主体的に運営を担う、地域コミュニティの核となる複合施設「こらぼ大森」が2004年4月に誕生した。

運営は、自分たちの居場所や活動拠点として活用すべく、住民たちが設立した「特定非営利活動法人大森コラボレーション」が受託し、世代を越えたふれあいや交流拠点となっている。



## 区民活動 支援施設大森 こらぼ大森

東京都大田区

森の巣箱は、高知県津野町にある、旧葉山村立床鍋小・中学校の校舎（1983年廃校）を再活用した農村交流施設。住民のアイデアを結集させ、地域のコミュニティ活動拠点として、また、地域外の人々との交流拠点としての機能を備えている。

運営は「運営委員会」を組織し住民自らがを行い、地元の人たちが集うだけに留まらず、全国から毎年8,000人が訪れる観光地として成長。敷地内の集会所は協働作業所に改修され、もうひとつの「巣箱」として、ししとうのバック詰めをする地域の高齢者の集いの場となっている。



## 農村交流施設 「森の巣箱」

高知県津野町

過疎地域である鹿児島県日置市吹上町では、旧野首小学校（1985年廃校）をアーティストの活動拠点として貸し出し、芸術活動やイベントをとおしてアートなまちおこしを展開。2009年から、地区公民館、温泉旅館組合、商店会など地域住民とアーティストが協働で吹上町の魅力を紹介して地域の振興を図る「吹上ワンダーマップ」を毎年開催し、全国から多くの来場者を集めている。

アーティストの活動拠点として、また、まちの魅力に気づいた地域住民の活性化につながり、全国から注目を集めている。



## 吹上 ワンダーマップ

鹿児島県日置市

## 第4回 廃校を地域支え合いの拠点に！全国サミット

